

# 新潟県

(全域)

## いもち病抵抗性品種コシヒカリBLの導入

### 【1. 概要】

- ・コシヒカリにいもち病に強い性質だけをプラスした「コシヒカリBL」を平成17年から全県で一斉導入
- ・農薬使用回数(成分回数)が従来のコシヒカリ栽培に比べ、25%削減可能

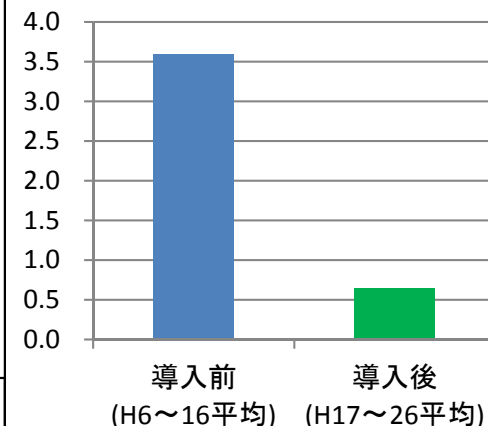


図1. 導入前後の葉いもち発病度(県内の全品種合計)  
新潟県病害虫防除所調べ

### 【2. 実践内容】

#### (1) 取り組みの背景、経緯

- ・昭和50年代は冷害やいもち病の発生により平年作を下回る状況が続き、良質米を安定的に供生産することが大きな課題となっていた
- ・いもち病に弱いというコシヒカリの弱点をカバーできれば農薬使用量の減少にもつながることから、戻し交配という育種によりコシヒカリBLを育成し導入した

#### (2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・数多くの展示ほの設置や、消費者への食味アンケートにより、生育や食味について従来コシヒカリと差が無いことを確認し周知するとともに、実需者への説明会を行う等、一斉導入前に十分な準備期間をとった
- ・異なる抵抗性を持つ4品種を混合して栽培することで、BLを侵す新たないもち病菌レースの出現を抑制するもので、発病抑制効果を安定して維持している



従来コシヒカリ コシヒカリBL

#### 図2. 従来コシヒカリとコシヒカリBLの比較

BLは穂いもちの発病が少ないため、しっかり登熟して止葉が黄化している。従来のコシヒカリは穂いもちが多発し、稔実させる籾が少ないのでまだ止葉の青みが残っている。

### 【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・いもち病の防除が削減でき、農薬使用回数(成分回数)が従来のコシヒカリ栽培に比べて25%削減可能となった
- ・また、これにより、環境保全型農業の拡大や適正流通の確保にもつながっている

【問い合わせ先】  
農林水産部農産園芸課生産環境係  
電話：025-280-5296